



ご挨拶

本日は“*A-Winds*34”2011年夏の演奏会にお越し下さり、誠に有難うございます。「こころ豊かな文化の香り高き町 大和郡山市」のお城の麓“やまと郡山城ホール”で皆様方と、こうしてお逢いすることができましたことに、*A-Winds*一同、心より感謝申し上げます。

1999年10月“アンサンブル”という少人数の音楽スタイルの延長上にと位置付けた“ウインドオーケストラ”と称し、大人数の編成にて、平城遷都1300年の歴史を誇る古都、奈良の都に発足しました。

同年の秋に初の舞台“デビュー演奏会”を開催し、以後四季折々に開催する、*A-Winds*奈良アマチュアウインドオーケストラの定期演奏会も、お陰さまを持ちまして創立11周年とともに、第34回目の演奏会を迎えることができました。これもひとえに、我々*A-Winds*の活動、そして音楽をこよなく愛して下さった皆様方の御指導、御支援の賜物と、団を代表致しまして心より厚く御礼申し上げます。

演奏面は勿論、運営面において、団員一人ひとりが「主人公」ということ、吹奏楽本来の特徴を最大限に引き出す『吹奏楽オリジナル作品』を中心に取り上げることを活動方針に掲げ、アマチュアながらも、音楽表現の研究に、作曲家の方々に実際に練習にお招きして、作曲家自身による作品の生い立ちや、楽曲の紐解き解説を聞きながら合奏指導を受けたりと、様々な啓蒙にも取り組み、活動を続けて参りました。

今回は、根強い人気を誇る秀逸作品「フェスティバルバリエーション」を取り上げ、吉崎直行氏を客演指揮者にお招きし、優雅で華麗なタクトさばきの元、指揮者、舞台、そして客席が、思わず踊りだしたくなる！そんな音楽を披露することで、いつまでも皆様方の心の中で鳴り響き、遙か遠く先の歴史の一頁になりますように願い、一句詠ませさせていただきます。

客席も 手に汗握る 夏祭り

今後とも、温かい御指導御支援の程、宜しくお願い申し上げます。

*A-Winds*奈良アマチュアウインドオーケストラ 団長 魚谷昌克

*

本日は“*A-Winds*34”2011年夏の演奏会にお越しいただき誠にありがとうございます。今回は、副題を「生きる音を楽しむ～Time Remembered～」と題し、団員それぞれの思い出の吹奏楽曲にスポットを当ててプログラムをご用意いたしました。

初めて手にした吹奏楽曲、初めて経験した吹奏楽コンクールの課題曲や自由曲、思い出に残る懐かしい曲の中からセレクトしたプログラムとなっております。

懐かしい曲を*A-Winds*のサウンドで、どうぞ最後までごゆっくりとお楽しみ下さい。最後に、本公演開催にあたり関係各方面よりご支援賜りました事を、演奏会実行委員を代表して厚く御礼申し上げます。

“*A-Winds*34”2011年夏の演奏会 実行委員長 佐藤 司



ご案内

“*A-Winds*35”2011年秋の演奏会
2011年11月13日(日) 14:00開演 やまと郡山城ホール大ホール

“*A-Winds*35”2011年秋の演奏会ではジェイムズ・バーンズ作曲「交響曲第三番」に挑戦します。また、アンサンブルステージなど、楽しい企画も考えています。みなさまのお越しを心よりお待ちしております。

“*A-Winds*35”2011年秋の演奏会 実行委員長 宮本 祐輔



A-Winds 奈良アマチュアウインドオーケストラ

Piccolo	佐藤 由加里 ♪	Trumpet	魚谷 昌克 表 恭子 篠木 章江 ◇ 竹腰 綾香 市原 満 井上 寛治 三方 裕司
Flute	佐藤 司 ♪ 魚谷 陽子 西村 美音 ◇ 坂下 英美 ◇	Trombone	萱原 淳嘉 小泉 文浩 鈴木 恵子 上野 遼太 進藤 梓
Oboe	深沢 亮子 ♪ 松井 志穂	Euphonium	大西 善郎 藤村 晃世
E♭ Clarinet	長尾 恭子	Tuba	楠 陽介 ♪ 岸本 和 敷知 愛奈
B♭ Clarinet	竹村 明恵 森本 幸恵 上野 彩香 八木 望 芳倉 宏文 ♪ 野島 佳織 日野上 昌里佳 近藤 晴美 川口 咲乃	Percussion	森田 晶 谷口 麻子 ◇ 久保 寛美 川本 理恵 松嶋 春香 荒井 智子 ☆ 木佐貫 雅 ☆ 惣内 あゆみ ☆
Alto Clarinet	大西 晴己	Piano	八木 真木
Bass Clarinet	辻田 綾子	Stage Manager	河津 雅之
Bassoon	満江 孝文 萱原 美華子	団員=54名 ◇=休団 ☆=エキストラ ♪= <i>A-Winds</i> 34実行委員	
Saxophone	島田 博一 初岡 和樹 宮本 祐輔 三宅 利幸		
Horn	久野 耕三 次田 哲平 小林 計昭 大田 雅美 ♪ 山中 美咲		



A-Winds メンバー募集

●募集パート

- ・クラリネット・ホルン・トロンボーン・ユーフォニアム ……各1名
- ・コントラバス ……各2名
- ・パーカッション ……各2名

- A-Winds*の活動趣旨(ウインドアンサンブル&オリジナル重視)に賛同頂ける方
- ご自分で楽器を準備できる方
- 全ての活動に賛同頂ける方
- 18歳以上の方
- 詳細はお問い合わせ下さい。

問い合わせ先は<e-mail>a-winds@amber.plala.or.jp



2011年6月26日(日) 13:30開場 / 14:00開演
やまと郡山城ホール 大ホール

主催 ● *A-Winds* 奈良アマチュアウインドオーケストラ
後援 ● 奈良県・大和郡山市・大和郡山市教育委員会・奈良県吹奏楽連



プログラム

◇第1部 団員指揮者：魚谷昌克

カーニヴァル・デイ

Carnival Day

作曲：高 昌帥／Chang Su KOH
出版：De Haske

学園序曲

School-Life Overture for Band

作曲：佐藤 長助／Chosuke Sato
出版：音楽の友社

狂詩曲「ノヴェナ」

Novena Rhapsody for Band

作曲：ジェームズ・スウェアリンジェン／James Swearingen
出版：C. L. Barnhouse

序曲「春の獵犬」

The Hounds of Spring

作曲：アルフレッド・リード／Alfred Reed
出版：Piedmont Music

◇第2部 客演指揮者：吉崎直之

タイム・リメンバード

Time Remembered

作曲：フィリップ・スパーク／Philip Sparke
出版：Anglo Music

「薔薇戦争」より 戦場にて

Battle from “The Wars of Roses”

作曲：山口 哲人／Yamaguchi Akihito
出版：All Japan Band Association

フェスティヴァル・バリエーション

Festival Variations

作曲：クロード・トーマス・スミス／Claude T. Smith
出版：Wingert-Jones Music



プログラムノート

カーニヴァル・デイ／高 昌帥

この作品は、1996年に兵庫県播磨南高校吹奏楽部の委嘱により作曲されました。元々の曲名は『ポルカ・マーチ』でしたが、出版に際して現行のものに変更されました。

曲は、アクセントのずれたリズム、よく変化するテンポなど、マーチとは言ってもかなり変則的な内容になっています。

学園序曲／佐藤長助

この作品は、1966年度(昭和41年度)の全日本吹奏楽コンクール中学校部門の課題曲として作曲されました。

当時の日本は、高度経済成長期の真っただ中で、カラーテレビ、クーラー、自動車という“新三種の神器”が各家庭に普及し始めた時期です。人々の生活が活気に満ちあふれ、大らかさのある時代の、いつまでも思い出に残したい学園生活の讃歌です。

狂詩曲「ノヴェナ」／ジェームズ・スウェアリンジェン

曲名の“ノヴェナ”とは、ラテン語で『9つの』という意味で、キリスト教カソリックにおいては、教皇が亡くなった後などに行われる9日間の祈りのことを指します。

この作品は、1980年にオハイオ州のアントワープ高校バンドに捧げられたものです。『インヴィクタ』『ロマネスク』など、スウェアリンジェンの吹奏楽作品は数多くありますが、この『ノヴェナ』が日本で初めて紹介された彼の作品で、その後、日本での彼の人気のブレイクのきっかけとなりました。

序曲「春の獵犬」／アルフレッド・リード

19世紀末のイギリスの詩人、アルジャーノン・スウィンバーンによる詩劇『カリュドンのアタラント』の冒頭部の合唱詩の中に、次のような一節があります。

春の獵犬たちが 冬が残した轍の上を進むとき

*女神アルテミスが 草原や暗がり*を雨音で満たす…

雪解けが始まり、春が目前に迫った喜びを詠った詩で、作曲者のリードはこの詩に深く感銘を受け、1980年に吹奏楽作品を作り上げました。曲はこの詩の持つ二つの要素である“若い快活さ”と“優しい愛の甘さ”を表現していて、全編が明るく美しい雰囲気になっています。

タイム・リメンバード／フィリップ・スパーク

“時間”は、誰にも平等に与えられているものであり、その存在は無限で、何時にも緩急つけることなく刻々と永遠に流れていきます。しかしまたその存在は一瞬でもあり、幸福なときも不幸なときも一瞬後にはすべて過去となり、歴史となっていきます。

この作品は、2000年代を迎えるにあたって1000年代を追憶して作られました。

将来に目を向けるためには過去を振り返ることが重要で、それにより希望のある未来が生まれてくるのです。

「薔薇戦争」より 戦場にて／山口哲人

この作品は、第3回全日本吹奏楽連盟作曲コンクール第1位に入賞し、本年度の全日本吹奏楽コンクールの課題曲となっています。

曲名の『薔薇戦争』とは、1455年にイギリス国内で白薔薇を紋章とするヨーク家と紅薔薇を紋章とするランカスター家との間の王位争奪から始まった内乱のことです。

フェスティヴァル・バリエーション／クロード・トーマス・スミス

曲名に“祝祭”と銘打った吹奏楽曲は数多くありますが、この作品ほど派手な曲はないでしょう。それ故に、曲は全編にわたって超絶技巧のオンパレード! 冒頭のホルンによるファンファーレからすでに超難関で、そのホルンから導かれた華やかな主題部のあと4つの変奏部が続くのですが、息継ぎの箇所が極端に少なかったり、指使いが超高速だったり、演奏者泣かせの細かい旋律が続出します。

しかしそのスリル満点の疾走感のみに意識が傾いてしまっていますが、この作品のもう一つの魅力は、モダンな雰囲気とポップスの香り漂う祝祭感覚にあります。この両者が非常にバランスよく配されていて、吹奏楽の魅力を最大限に味わうことのできる、いわば“吹奏楽の大祭典”なのです。

作曲はアメリカ空軍ワシントン軍楽隊の委嘱によるもので、1982年に初演されました。日本でもすぐに紹介されましたが、そのあまりの演奏難易度の高さに途中で挫折してしまうバンドがほとんどでした。そんな中で、1984年の全日本吹奏楽コンクールにおいて、天理高校吹奏楽部による名演をご記憶の方も多いことでしょう。



吉崎直之プロフィール



京都市立堀川高等学校音楽科(現京都市立京都堀川音楽高等学校)、京都市立芸術大学音楽学部をトランペット専攻で卒業。トランペットを八木茂夫、北村源三、戴野雅彦、有馬純昭、指揮法を伊吹新一の各氏に師事。大学在学中から、フリーランスのトランペット奏者として活動し、京都市交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、大阪センチュリー交響楽団、東京佼成ウインドオーケストラ、宝塚歌劇オーケストラ等に客演。京都JEUGIAトランペット講師、大阪プラス・コンソートのコンサート・マスター、BREEZE BRASS BANDでの活動を経て、現在、プラス・フェイヴァリッツ、ウインドカンパニー管楽オーケストラ、ポリヒムニア・アンサンブル、アルカディア室内管弦楽団、大阪コレネット・サクバット・アンサンブル等のメンバー。ヤマハ株式会社契約インストラクター。全日本学校音楽研究会講師。平成18、20、21年度文化庁派遣講師、22年度 JTBコミュニケーションズ「子どものための優れた舞台芸術体験事業」講師。奈良県立高円高等学校音楽科講師(Tp、合奏)。京都市教育委員会吹奏楽特別非常勤講師。奈良文化高等学校吹奏楽部音楽監督。天理音楽院講師。

これまでに多数の吹奏楽団、オーケストラ、合唱団を指揮指導し、現在A-Winds奈良アマチュアウインドオーケストラの他、樫原交響楽団、王寺ジュニアバンド・ハルモ、大和高田市立片塩小学校、葛城市立當麻小学校、奈良市立吐山小学校、奈良育英小学校、堺市立向丘小学校、大阪市立八幡屋小学校、葛城市立白鳳中学校、山添村立山添中学校、香芝市立香芝中学校、奈良市立登美ヶ丘北中学校・平城東中学校、奈良女子大学附属中等教育学校、奈良県立高円高等学校・平城高等学校・畝傍高等学校・樫原高等学校、奈良文化高等学校、国立奈良高等工業専門学校、京都市立紫野高等学校、同志社香里中・高等学校、白頭学院建国中・高等学校、の各団体等を指導。